

東弁人権賞 受賞者が決定

故・小笠原登氏と小山道夫氏の2人に

東弁は毎年、人権擁護に尽力した人を対象に人権賞を授与している。今年、第16回人権賞の受賞者に決定したのは、ハンセン病患者の治療と人権擁護に尽くした故・小笠原登氏と、ベトナムのストリートチルドレンの救済活動を現地で続けている小山道夫氏の2人。

11月29日、司法記者クラブで、人権賞選考委員会委員長の平松紘青山学院大学教授らが記者会見して発表した。ちょうどベトナムから帰国中の小山氏も記者会見に出席し、ストリートチルドレン問題に取り組むようになった動機や現在の活動を語った。

表彰は2002年1月11日の東弁新年式で行なわれる。なお小笠原氏については遺族に贈られることになる。

◎小笠原登氏（故人）

京都帝大医学科卒業後、1926年よりらい治療に従事。らいは細菌性の感染症でも感染力は弱いとして、当時主流であった強制隔離等に反対したが、「らい学会」からは邪説として排除された。戦後「ハンセン病学会」になっても名誉回復がされないまま、1970年に死去。その科学的先見性とヒューマニズムに基づく功績は大きい。

◎小山道夫氏

ベトナム「子どもの家」を支える会ベトナム事務局長。1992年、ホーチミン市を訪問。ストリートチルドレンに出会い、救済を決意。小学校教諭を退職してベトナムに渡り、単独で支援活動を開始。その後「子どもの家」をつくり、自立支援をめざした職業訓練や障害児医療センターなどを開設。現在は全国的なボランティアグループに発展している。その熱意と積極的な活動は評価される。